

高校入試直前の注意

●私立高校の入試が始まった。志望校合格を目標に努力してきた人にとって、その努力の成果が試されるときだ。自分の持てる力を十分に発揮して、合格を果たしてほしい。今回は、直前の注意をしておく。

●気合を入れ直そう。入試は本当に疲れます。まして、途中で不合格を経験すると全身の力が抜けて、何もしたくないと思ったりするもの。実はこれがチャンスなのです。

「今のままではいけない。真剣になりなさい。」という天の声。

一日でも早く立ち直って、もう一度頑張るのです。歯をくいしばって、残りの日を過ごすのです。やるべきことをやるのです。



●ケアレスミスは、命とり！いくら力があってもミスによる失点が多ければ合格はおぼつかない。但し、当日にミスをしないようにあめしように、こころを集中させるのは禁物。前日までに自分が落としたところを何回もやって頭の中にミスのパターンを焼き付けておくこと。そうすると、当日はかなり防げる。

●字は丁寧。紛らわしい字は全て×になるといふのは、採点官の話です。

●問題はよく読め！ミスをしないためにも、問題をきちんと読むことが必要である。記号で答えるべきものを、語句で答えたりしないよう十分注意すること。

●理社は試験当日まで、いくらでも伸ばせる！弱い部分があれば、集中的にやること。また、社会は、時事問題も忘れずに目を通しておくこと。

●数学は、計算ミスを絶対にしないように！そのためにも、今までの計算ミスが発生した問題を解き直しておくこと。また、全問解けなくても慌てないこと。解けるものから確実に解いていくように。

に。

●解答欄はすべて埋めること！どんなに学力があっても、すべての問題に解答できるはずがない。当然、分からない問題もあるはずだ。そのときは、得意の勘を働かせて答えを書き入れること。もしかしたら正解かも知れないのだから……。

●また、公立入試は、一日目に五教科のテストをし、二日目に面接や小論文など、その学校独自の検査を実施することになっているが、とにかく初日が勝負。五教科の学科試験をしっかり乗り切ることだ。その際、気をつけてほしいのは、悪い科

★受験当日の注意★

- ①腕時計を忘れるな。
- ②鉛筆、消しゴムはたくさん持っていけ。
- ③定規、コンパスを忘れるな。
- ④トイレは早めに行く。テスト開始の直前は混みます。
- ⑤あがってしまったら、必ず作業する。言葉で自分を落ち着かせようとしてもムリ。手をさすったり、体操したり、手をふったり、深呼吸をしたり、文房具の手入れをしたり。作業に集中することで落ち着きます。
- ⑥傾向がかわったら、大チャンス。みんなビビります。当然、あなたもビビります。大事なのは、その先。みんなビビって頭の中が真っ白のはず。だから、「みんな点は伸びないぞ。自分は落ち着いて、とれる所を確実に解いて、合格に近づこう。」と考えるのです。おぼえておいてね。
- ⑦保冷剤は役に立ちます。頭がボーッとなったとき、休み時間に、首やほっぺにあてるとすっきりします。
- ⑧5教科あれば1教科や2教科失敗するのは当たり前。合否は、失敗したことをひきずらないで、他の教科をきちんと解けるかで決まります。



受験に立ち向かう

今年も一月から高校受験・大学受験がはじまる。スーパードラゴンやコンビニエンスストアなどには合格祈願のお菓子やグッズが並ぶようになり、受験シーズンの到来を知らされる。昨年は新型インフルエンザが猛威をふるい、試験日程が変更になるなど、直前に焦るような出来事が起こったが、幸い今年はそのような流行ではないようで、混乱は避

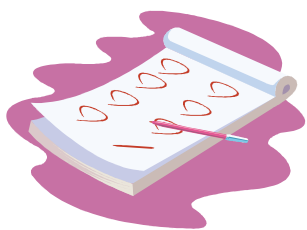


(小林(健))

けられそうである。

すでに試験が終わっている人もいるだろうが、大半は自分の第一志望まであと何日と毎日のように考え、不安な日々を過ごしているであろう。なかなか過去問をやっても得点が取れない、合格点に届いていない、全く歯が立たない問題がある、普段なら解けていた問題が急に解けなくなっているなど、不安な気持ちを表すような現状に直面している人もいるのではないだろうか。私自身の高校受験は、この不安に負けてしまったため不合格の連続だった。なぜこのような結果になってしまったのか、後日、冷静になって分析してみると、入試直前の勉強法、問題への取り組み方が誤っていたことに気付いた。私は、正答率が低い難問ばかりに挑戦し、それらが解けるようになって、ただ単に喜んでいるだけだった。自分が合格するために必要な得点ほどのくらいで、それを取るためには何をしなければならぬかを考えて問題を選び、取り組んでいなかったのである。

では、どのように取り組んでいけばよかったのか。それは、自分の志望校の合格点を意識した勉強法である。各科目の配点を考えて、自分が補強しなければならぬ分野の問題を集中的に解くのである。例えば、公立高校入試問題の数学で、配点が10点の証明問題と30点の関数問題では、どちらを強化した方が合格点に近づけるだろう。



関数や他の問題も完璧にできている場合は証明問題に組み、そうでない場合は配点の大きい関数問題をひたすらやり込むことが必要である。

入試直前になってあわてても仕方がない。自分にできる範囲を精一杯するしかない。可能性(ゼロ)なのにはじめから受けようとしている人はいない。だからこそ、ここでは原点に立ち返るようにしよう。まだ、時間は残されている。体調管理をしつかりとして、心身ともに良い状態を保ち、自分の今できることをしっかりとやれば、合格へ必ず近づくことができる。だから、一日一日を大切に、入試の日を迎えよう。そして、困ったときには、周りでずっと応援してくれている人たちに相談しよう。話を聞いてもらうだけでも、自分一人で立ち向かっているのではないと安心できるはずである。今まで努力してきた自分と支えてくれた人たちを信じて、入試当日を自信をもって迎えてほしい。

(小林(英))

高校進学後の道

私は何度か書いたこともあると思うが、一生懸命勉強して高校に進学したわけではなかった。「持っている力のみで進学した。」ある意味では、だらしのない受験生だった。

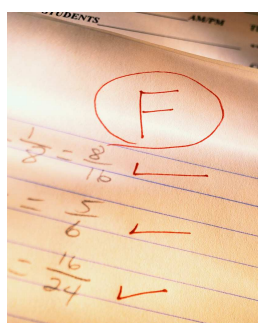
当時私が住んでいた、大阪府高槻市は地元集

きる公立高校は原則として決められていた。それ以外の高校に進学しようとする、学校の先生から志望校の変更の打診が強烈にあった人もいたようだ。私の通っていた中学校からは、偏差値は低いが新しく勢いのある高校と、少々偏差値は上だが中堅の高校に原則として決められていた。私は周囲の人の話と自分の意志で私が通うことになる前者の高校を選択した。

ここまでだと私なりに努力したように聞こえるが、実際は違った。遊びをメインで考えていたことや、勉強をしなくても合格できる高校をそのときは単に選んだだけだった。実際私の実力からは高校の偏差値は10は下だったようだ。

しかし、高校に入ってから勉強についての随落はすさまじいものだった。一学期の最初のほうはよかったが、二学期の中間テストでは試験のあった八科目中六科目も赤点があった。そのとき担任の先生から聞いた話だと、五〇人のクラスで三十九番

目だったらしい。十一年のクラスあつた学年の中、最も成績が良くないクラスとも言われていたの



で、一学年五百五十人中おそらく五百番以下だったのではないかと思う。さすがにそのときはまずいと思い、それ以後は勉強もするようになって、無事卒業もできた。

今思い返すと、勉強に関して危機意識がない時期は他者の意見を全く聞き入れていなかった。

私なりの工夫もなかった。しかし、危機意識が出てくると、他者の意見も聞くことができるし、私なりの工夫もするようになっていたと思う。

ところで今、受験に向かっている中学三年生を見ると、一生懸命やっている生徒が大半いる中、以前の私のような危機意識のないまま、なんとなく与えられた勉強だけやっている生徒も少なからずいる。もちろん志望校に合格することが第一ではある。しかし、このままだと高校に入学してから、成績が下降していくのではないかと心配になる。そうならないためには、今、私は合格を第一におきながらもできる限り、勉強に乗り遅れている生徒にはほとんど体当たりでぶつかっていく。長くてもあと二カ月弱であるが、その間に意識的に勉強に向かって、受験で辛かったけど「がんばってやった」という感覚を持ってもらえるようにやっていきたい。

(岡本)



▼▲継続希望の方へ▲▼

◆卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。

◆継続をご希望の方は、在籍なさっていた教室までご連絡下さい。

